



### ★ 3さい R ちゃんのパママ

2歳と3歳は「言葉をためている」「言葉の爆発」、そういうお子さんもいらっしゃるでしょう。しかしながら、次女に関していえば「もうひとつのおうち」に通わなければ言葉を引き出せなかったかもしれません。

次女が5歳上の長女より月齢相応の事が出来ないと気付いたのは幼稚園受験年の春、2歳6ヶ月でした。近所の幼稚園には面接や簡単なテストがあります。次女も長女が経験したように受験対応の幼児教室に通わせるつもりでしたが、そこでは難しいと感じ、それ以上の対応が必要不可欠でした。

同じ秋生まれの長女も言葉は早い方ではありませんでしたが、過去のビデオを見ると4月には自分の名前をはっきりと発音しています。次女は自分の名前を発音することが出来ず、2語文も殆ど話せませんでした。長女でさえ幼稚園で自分の意思を上手く伝えることが出来ず苦労したのに、このままでは次女はそれ以上に苦労するでしょう。

一般的な幼児教室では「躰がなっていない、家庭での訓練が出来ていない」と一蹴されてしまいそうなことが「もうひとつのおうち」では、専門のせんせいが発達の段階に合わせて家庭での向き合い方をアドバイスして下さるので親も納得しながら進んで行くことが出来ます。

当時、次女は積み木を真ん中に積むことが出来ませんでした。目と手の協応がとれてなかったり、正中線を越える動作が上手くできなかつたりしたようです。この時期は身体の中線を越える運動を意識してレッスンをしてくださり、日常生活の中で必要とされるスムーズな動きを習得することができました。積み木遊びや工作などを楽しむほどになりました。

「もうひとつのおうち」のプレスクールと併行して、月1回希望幼稚園でも2時間程度のプレスクールに通っていました。そこでは、何度も欠伸をすることがあり、レッスンに集中していないように見えました。睡眠が足りないのかな？つまらないのかな？と心配になって、「もうひとつのおうち」のせんせいに相談したところ、「一生懸命集中しよう、緊張をほぐそうと頑張っているからかもしれませんね。慣れてきたらきっと少なくなると思いますよ。」と次女の気持ちに寄り添った分析をしてくださいました。そしてその通り、「もうひとつのおうち」と幼稚園プレの回数を重ね、集団生活と授業に慣れることによって欠伸は解消されていきました。

「もうひとつのおうち」では、レッスン中にお母様と一緒にお話をしたり、相談したりすることが出来ます。入園予定の幼稚園はスカートにハイソックスなのでその格好をさせたところ、転んだ時に手をつく

ことが出来ず、何度も膝をひどく擦りむいてしまいました。あるお母様から「うちの子も出来なくてパランスボールで練習したら出来るようになったよ。」と教えて下さいました。「もうひとつのおうち」に通園している保護者の皆さんはとても勉強熱心で助けられる事が多々ありました。

「もうひとつのおうち」のご指導は悪い点だけでなく良い点も沢山教えて下さることも私の心の拠り所となっております。運動は上手なのに、言葉はなかなか出ず、次女の成長度合いはデコボコしていました。りさせんせいは「幼稚園生活が始まった時に おつりが出る位、出来る事を増やしましょう。」と先を見据えた指導をして下さいます。これから先幼稚園に入園し、次女が何か失敗しても出来る事がカバーしてくれると期待しております。

「もうひとつのおうち」に入る前は、海に行けば砂が手足に付くのを嫌がりビーチマットの上、スキー場に行けば雪を触るのを嫌がり部屋の中だった少し神経質な次女。今ではつぼ糊に手を突っ込み自分から工作をやりたがります。これから沢山一緒にお出掛けすること、幼稚園に行けることを心から楽しみにしています。

こんな前向きな気持ちにしてくださった「もうひとつのおうち」のせんせい方に心から感謝申し上げます。

